2．前多摩市環境基本計画（12 年度から 21 年度）の評価

前多摩市環境基本計画は、平成 22 年度を短期目標として平成 12 年度の現状からの改善を計画したものです。本評価結果は、基本目標及び長期目標の分類毎に【管理指標（12 年度）】、【管理指標の現状（平成 21 年度実績）】、【短期目標（平成 22 年度）】により状況の変化を以下の観点により総合的に判断し評価したものです。

基本目標

・うるおいと安らぎの中で人が暮らせるまち　多摩　～和のまちづくり～
・自然の循環の中で人が暮らせるまち　多摩　～環のまちづくり～
・みんなが身近な暮らしの中で環境について考え、行動するまち　多摩　～輪のまちづくり～

（1）進捗状況の評価の観点

●平成 12 年度から短期目標（平成 22 年度）を見たときに平成 21 年度までの進捗状況に基づき評価する。
●年により上下する管理指標は、過去の環境報告書をもとに各年の数値も考慮する。
●短期目標（平成 22 年度）が数値目標でない場合は、平成 12 年度と平成 21 年度の実績の差で判断。

（2）進捗状況の評価の基準

● ↗ 短期目標（平成 22 年度）に順調に近づいているもの。または、短期目標を達成しているもの。

● ↘ 短期目標（平成 22 年度）から遠ざかっているもの。

● → 短期目標（平成 22 年度）に対し、平成 12 年度と平成 21 年度にあまり変化がないもの。または、短期目標の達成の見込みが困難なもの。

（3）評価結果

基本目標	長期目標		短期目標（平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
うるおいと安らぎの中で人が暮らせるまち　多摩～和のまちづくり～	自然環境の保全等	みどりの保全・創出	●将来にわたって永続性の高い緑地面積率を約 **37%**確保します。	●同左 **31.51%**（平成 9 年度）	●同左 **35.45%**	↗ → 3.94%（約多摩中央公園 7 つ分以上）増えた。着実に指標に近づいているが、目標達成には、40ha 分不足していることから短期目標の達成は困難である。
		水辺環境の保全・回復	● BOD 環境基準適合率：各測定点 **100%** 河川の水質汚濁に係わる環境基準（河川類型Bを適用）を下回ることをめざします。	●同左 **100%**	●同左 **100%**	↗ 数値は毎年上下しているが、過去 3 か年では、1.5mg/l 以下を保っている。BOD の数値からみれば水質環境はよくなっていると評価できる。
			●大栗川・乞田川の河川水量の**増量**をめざします。	●大栗川（合流点前） **0.63**（㎥/s） 乞田川（行幸橋） **0.14**（㎥/s）	●大栗川（合流点前） **0.85**（㎥/s） 乞田川（行幸橋） **0.16**（㎥/s）	→ ※ 大栗川や乞田川は雨が降れば急に増水し、またすぐに減少してしまいます。 毎年上下している傾向としては基準年とほぼ同様である。
			●河川に生息する魚類の種類・個体数を**増やす** 水辺の自然度の向上をめざします。	●大栗川（合流点前） 種類　**11** 個体数　**180** 乞田川（行幸橋） 種類　**10** 個体数　**114**	●大栗川（合流点前） 種類　**9** 個体数　**58** 乞田川 種類　**2** 個体数　**2**	↘ 参考 過去 3 か年の調査では、個体数が 100 個体を超えることはなかった。
		生物多様性の確保	●将来にわたって永続性の高い緑地面積率を約 **37%**確保します。	●同左 **31.51%**（平成 9 年度）	●同左 **35.45%**	↗ → 3.94%（約多摩中央公園 7 つ分以上）増えた。着実に指標に近づいているが、目標達成には、40ha 分不足していることから短期目標の達成は困難である。
			● BOD 環境基準適合率：各測定点 **100%** 河川の水質汚濁に係わる環境基準（河川類型Bを適用）を下回ることをめざします。	●同左 **100%**	●同左 **100%**	↗ 数値は毎年上下しているが、過去 3 か年では、1.5mg/l 以下を保っている。BOD の数値からみれば水質環境はよくなっていると評価できる。
			●大栗川・乞田川の河川水量の**増量**をめざします。	●大栗川（合流点前） **0.63**（㎥/s） 乞田川（行幸橋） **0.14**（㎥/s）	●大栗川（合流点前） **0.85**（㎥/s） 乞田川（行幸橋） **0.16**（㎥/s）	→ ※ 大栗川や乞田川は雨が降れば急に増水し、またすぐに減少してしまいます。 毎年上下している傾向としては基準年とほぼ同様である。
			●河川に生息する魚類の種類・個体数を**増やす** 水辺の自然度の向上をめざします。	●大栗川（合流点前） 種類　**11** 個体数　**180** 乞田川（行幸橋） 種類　**10** 個体数　**114**	●大栗川（合流点前） 種類　**9** 個体数　**58** 乞田川 種類　**2** 個体数　**2**	↘ 参考 過去 3 か年の調査では、個体数が 100 個体を超えることはなかった。

※平成 22 年度は、結果の評価については「参考」としました。

基本目標	長期目標		短期目標（平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
うるおいと安らぎの中で人が暮らせるまち　多摩～和のまちづくり～	都市環境の保全等	公園緑地の確保	● 1 人あたりの都市公園面積 13㎡（広域公園を含まない）以上の確保をめざします。	● 1 人当たりの都市公園面積 **11.3㎡ / 人**	● 1 人当たりの都市公園面積 **13.47㎡ / 人**	↗ 短期目標を達成した。
			●市民参加の公園数を増やします。	●市民参加の管理公園数 **111 団体**	●市民参加の管理公園数 **151 公園**	↗
			「公園愛護会の数」を短期目標・管理指針としていたが平成 14 年度からアダプト制度を平成 16 年度からグリーンボランティアを加えた「市民参加の管理公園数」とする。			
		景観の保全・創出	●みどりと都市とが調和した景観を保全します。	●定点からの景観の状況（写真撮影）	●同左変化なし【マンション建設、開発等はあるが相対的には変化なし】	→ 特筆すべき変化はみられない。
			●地区まちづくり計画を策定している地区の数 市民参加によるまちづくり（景観づくり）を進めます。	●地区計画決定地区数 **10 地区** 建築協定締結地区数 **24 地区**	●地区計画決定地区数 **28 地区** 建築協定締結地区数 **17 地区**	↗ 地区計画決定地区・建築協定締結地区の増により良好な環境の保全が進んでいる。
		歴史・文化の保全・継承	●歴史文化継承事業の実施回数及び参加人数を増やします。	●学習講座等実施数 **12 事業** 参加者数　**431 人** 展示会事業数 **14 事業** 入場者数 **25,613 人**	●学習講座等実施数 **17 事業** 参加者数　**2,088 人** 展示会事業数 **3 事業** 入場者数 **69,893** 人	↗ 講習・講座等・展示会への参加者が増加している。
		まちの美化	●ごみのポイ捨て、捨て看板の量や、路上駐車・放置自転車数の削減をめざします。	●捨て看板（屋外広告物違反物）の回収量　**3,915 件**	●捨て看板（屋外広告物違反物）の回収量　**2,135 件**	→　参考 捨て看板数は年度毎に増減が激しい。
				●路上駐車の摘発数 **2,651 台** ●放置自転車の台数 **688 台**	●瞬間路上駐車台数 **361 台** ●放置自転車の台数 **169 台**	↗ 路上駐車台数、放置自転車台数ともに減少している。
				※16 年度から警視庁で調査指定している瞬間路上駐車台数に変更		

基本目標	長期目標		短期目標 （平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
自然の循環の中で人が暮らせるまち　多摩 ～環のまちづくり～	公害の防止	大気汚染の防止	●すべての測定地点・時期において、右に示す大気汚染物質濃度がすべて大気汚染に係わる環境基準値を下回ることをめざします。	● SO_2、NO_2、SPM、CO 濃度が環境基準値を下回った割合 **100%** Ox 濃度が環境基準値を下回った割合 **50%**	● SO_2、NO_2、SPM、CO 濃度がすべての地点で環境基準値を下回った割合 **100%** Ox 濃度が環境基準値を下回った割合 **0%**	↗↘ SO_2、NO_2、SPM、CO はすべての地点で環境基準を下回っているとともに、経年的にも減少傾向である。 オキシダントは年毎の増減が激しい。平成 14 年度から新たに指標に加えた VOC は、環境基準値付近で留まっている。
		水質汚濁の防止	●すべての測定地点・時期において、水質汚濁に係わる環境基準（河川類型 B を適用）の達成をめざします。	● BOD 濃度、pH、大腸菌群数が環境基準値を下回った割合 **62.5%**	●同左 **58.8%**	→ 全体的にほぼ横ばい。BOD 濃度は経年的にほぼ環境基準を満たしているが pH と大腸菌群数は環境基準を超えている。
		騒音・振動の防止	●すべての測定地点・時期において、騒音に係わる環境基準の達成をめざします。	●道路騒音レベルが環境基準値を下回った割合 **37.1%**	●同左 **85.7%**	↗ 低騒音舗装の施工により改善されてきた。
		有害化学物質対策	●市内全域のダイオキシン類濃度を把握します。 大気：**5 地点** 土壌：**32 地点**（累計）	●環境中（大気、土壌）のダイオキシン類濃度把握地点数 大気：**5 地点** 土壌：**9 地点**（累計）	●同左 大気：**5 地点** 平成 12 ～ 16 年度 土壌：**5 地点** 平成 12 ～ 16 年度にかけて市内全域 **33 地点**を調査	↗ 市内のダイオキシン類調査結果は、すべて環境基準以下であった。 平成 17 年度以降の定点調査（大気・1 カ所）結果は各年とも環境基準以下であった。
			●ごみの焼却量 前期指標 平成 12 年 10 月～平成 13 年 9 月までの 1 年間の焼却量から 9%削減（目標値：36,775t）するとともに、埋立処分量ゼロをめざします。 後期指標 平成 16 年度比で 20%削減（目標値：**33,647t**）するとともに、埋立処分量ゼロをめざします。	●ごみの焼却量 **40,438t** （H12.10 ～ H13.9） ごみ埋立処分量 **6,381t**	●ごみの焼却量 **35,043t** ごみ埋立処分量 **89t**	↗→ ごみの焼却量は経年的に減少しているが、新指標には届いていない。 一方、1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量は目標に達している。 また、ごみ埋立処分量も大きく減少しているが、ゼロには届いていない。
			●化学物質に関する情報提供システムの確立をめざします。2 手法	●化学物質に関する情報提供システム確立の進捗状況	●紙（行政資料室）と電子（ウェブ）にて情報提供を行っている。また、公式ホームページでは東京都の関連サイトとリンクを作成している。	↗ 多摩市及び東京都の公表データをウェブで公開
		その他の公害の防止	●その他の公害の防止に関する啓発活動を進めます。	●その他の公害の防止に関する啓発活動の実施数 0 件	●ウェブ上での啓発を実施	↗ 多摩市及び東京都の公表データをウェブで公開

基本目標	長期目標	短期目標 （平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
自然の循環の中で人が暮らせるまち　多摩　～環のまちづくり～	ごみの減量、資源の有効利用	●ごみ排出量 前期指標 平成 12 年 10 月から平成 13 年 9 月までの 1 年間の排出量を 5%削減します。22 年度目標 47,878t 後期指標 平成 16 年度比で 20%削減（目標値：**41,665t**）	●ごみ排出量（家庭系＋事業系） **50,398t** （H12.10 ～ 13.9）	●同左 **42,602t**	↗→ ごみ排出量は経年的に減少しているが、新指標には届いていない。
		●再生利用率を約 **32.4%**に増加します。	●再生利用率［総再生利用量 /〔ごみ総発生量（総再生利用量含む）〕］約 **27.4%** （H12.10 ～ H13.9）	●同左 **33.8%**	↗ 再生利用率は目標を達成。
		●ごみの埋立処分量をゼロに近づけます。	●ごみの埋立処分量 **6,381t**	●ごみの焼却量 **35,043t** ごみ埋立処分量 **89t**	焼却灰をエコセメントに再利用し、埋め立て量は大幅に減少しているが、ゼロには届いていない。
			●多摩市リサイクル協力店の数　**19 店**	●同左 **101 店** （エコショップに変更）	↗ 経年的に増加傾向である。
	エネルギーの有効利用	●電力消費量 前期指標 平成 12 年度レベルから 15%削減することをめざします。（目標 716,860 千 kWh） 後期指標 消費量を平成 14 年度レベルから 4.8%削減（目標：**850,537 千 kWh**）	●電力消費量 **893,422 千 kWh** （平成 14 年度実績）	平成 21 年度の「多摩市環境報告書」より多摩市全体の電力使用量は、東京電力（株）から公開可能なデータをいただけないため、二酸化炭素排出量のみを掲載	↘ 電力消費量は、平成 14 年度比で 2.7%増（平成 20 年度） ガス消費量は、平成 14 年度とほぼ同量（平成 21 年度） 短期目標の達成は難しい。
		●都市ガス 前期指標 消費量を平成 12 年度レベルから 15%削減（目標：30,161 千㎥） 後期指標 消費量を平成 14 年度レベルから 4.8%削減（目標：**40,014 千㎥**）	●都市ガス消費量 **42,032 千㎥** （平成 14 年度実績）	●同左 **41,995 千㎥**	

基本目標	長期目標		短期目標 （平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
自然の循環の中で人が暮らせるまち　多摩 ～環のまちづくり～	健全な水循環の確保		● 1 人当たりの水使用量を 10%削減することをめざします。 （目標：**280L/ 人**）	●市民 1 人当たりの上水使用量 **311L/ 人・日**	●同左 **296L/ 人・日**	↗ → 1 人当たりの水使用量は減少しているが、短期目標達成は難しい。
			●雨水浸透・貯留能力の向上をめざします。 前期指標 雨水浸透施設 130 件（累計） 浸透ます 700 個（累計） 浸透トレンチ 2,060m（累計） 後期指標 雨水浸透施設 **90 件**（累計） 雨水簡易貯留槽 **170 件**（累計）	●雨水浸透施設 **48 件**（累計） 雨水簡易貯留槽 **109 個**（累計）	●雨水浸透施設 **68 件**（平成 20 年度までの累計） 雨水簡易貯留槽 **183 個**（累計）	↗ 雨水浸透施設については、平成 20 年度末に補助制度廃止により 21 年度以降不算入 雨水簡易貯留槽のみを評価
			●湧水量の増量をめざします。	●湧水量 大谷戸公園 **1.1L/S** （H12.9.27） 寺の入り **0.17L/S** （H13.9.19）	●同左 大谷戸公園 **0.8L/S** 寺の入り **0.28L/S**	→ 経年的には変化はみられない。
	地球環境の保全等	地球温暖化の防止	●二酸化炭素排出量 前期指標 平成 11 年度レベルから 12%削減することをめざします。 目標： 375,199t-CO_2 後期指標 平成 14 年度レベルから 4.8%削減することをめざします。 目標：**419,274t-CO_2**	●二酸化炭素排出量（電力・都市ガス消費・ごみ焼却を対象） 前期指標 426,362t-CO_2 （平成 11 年度） 後期指標 **440,629t-CO_2** （平成 14 年度）	●同左 **438,629t-CO_2**	→ 電気消費由来は、平成 14 年度比で 2.7%増（平成 20 年度） ガス消費由来は、平成 14 年度とほぼ同量（平成 21 年度） ごみ焼却由来は、平成 14 年度比で 73.7%減（平成 21 年度）となっている。 ※ごみ焼却由来は、平成 19 年度「全焼却量」を「プラごみ焼却量」に換算基準を変更。
		オゾン層の保護	●家電リサイクル法に基づくフロン封入製品（冷蔵庫、エアコン）の回収を定着させ、不法投棄処理件数（台数）0 台をめざします。	●冷蔵庫、エアコンの不法投棄処理件数 **31 台** （H13.4 月から 12 月の累計）	●同左 **20 台**	→ 平成 18 年度までは、減少傾向であったが、以降、増加の傾向に転じている。
		酸性雨の防止	●大気汚染物質（二酸化硫黄、二酸化窒素）濃度が大気汚染に係わる環境基準値を下回ることをめざします。	●大気汚染物質（二酸化硫黄、二酸化窒素）濃度が環境基準値を下回った割合 **100%**	●同左 **100%**	↗ 環境基準値以下であるとともに、過去 3 年間では、さらに減少の傾向である。
				●愛宕測定局における酸性雨の測定結果年平均値 **pH4.4**	平成 17 年度以降、東京都環境局での測定は廃止されたため、測定不能。	

基本目標	長期目標		短期目標（平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
自然の循環の中で人が暮らせるまち　多摩 ～環のまちづくり～	地球環境の保全等	森林の保全	●将来にわたって永続性の高い緑地面積率を約 **37%**以上確保します。	●同左 **31.51%**（平成 9 年度）	●同左 **35.45%**	↗ → 3.94%（約多摩中央公園 7 つ分以上）増えた。着実に指標に近づいている。しかし、目標達成には、40ha 分不足していることから短期目標の達成は困難である。
			●再生利用率を約 **32.4%**に増加します。	●再生利用率［総再生利用量 /〔ごみ総発生量（総再生利用量含む）〕］約 **27.4%**（H12.10 ～ H13.9）	●同左 **33.8%**	↗ 再生利用率は目標を達成。
				●多摩市リサイクル協力店の数　**19 店**	●同左 **101 店**（エコショップに変更）	↗ 経年的に増加傾向である。

基本目標	長期目標		短期目標（平成 22 年度）	管理指標（12 年度）	管理指標の現状	結果の評価
みんなが身近な暮らしの中で環境について考え、行動するまち　多摩～輪のまちづくり～	人づくり	環境教育の充実	●学校における環境教育の時間、特に体験学習の時間を増やします。 目標：**100%** 取組割合 （各項目の取組校数の計）/（取組 5 項目× 31 校）	●小中学校における項目別環境教育の取組割合　**49.7%**	●同左 **65.5%**	↗ → 学校での環境教育の取組は増加している。
		環境学習の拡充	●環境学習の場・機会や参加人数を増やします。	●市及び文化振興財団が主催する環境学習事業の実施数、参加者数 学習講座 実施数　**81 事業** 参加者数　**3,398 人** 展示会 実施数　**23 事業** 入場者数　**25,613 人**	●同左 学習講座 実施数　**74 事業** 参加者数　**4,501 人** 展示会 実施数　**78 事業** 入場者数　**69,893 人**	↗ → 学習講座は微減しているものの、参加者数及び展示会の実施数、入場者数は増加している。展示については、ごみ分別、減量啓発活動が活発化している。
			●環境保全のための指導者・リーダーなどの人材を増やします。	●多摩市生涯学習バンクへの環境関連人材の登録数　**2 人**	多摩市生涯学習市民バンク登録数　**1 人**	↘
	パートナーシップづくり		●パートナーシップ形成のためのベースをつくります。	●「多摩市民環境会議」の設置と活動状況 設置　H13.5.29 活動　**2 回 / 月**	新たな取組みを行うなど活動も広がりつつある。 活動：全体会、部会、運営会議 **各 1 回 / 月**	↗ 市民環境会議の活動内容が、質量ともに向上している。市民協働事業の中での事業者参加を実施。
				●環境子ども会議の設置と活動状況 未設置	未設置	→
	フォローアップ体制づくり	環境情報の収集・公開体制の確立	●環境に関する情報収集量・公開の方法を増やします。	●図書館行政資料コーナーにおける環境に関する情報資料数 253 種、593 冊 （H13.8.1 現在）	●図書館における環境に関する行政資料数 517 種、993 冊 ※参考 行政資料以外の環境の環境関係図書 1962 種、3136 冊	↗ 環境に関する資料は増加している。
				●多摩市環境ホームページへのアクセス件数　未開設	一部開設	環境ホームページの開設はできていないが、多摩市公式ホームページで公開。
		市民参加体制の確立	●市民参加による市の環境マネジメントシステムの確立・運用	●多摩市環境審議会における本計画の目標の達成状況や市の環境に係わる施策の点検・評価、見直し・改善の実施の有無などの確認状況 未着手	環境マネジメントシステムの確立 多摩市環境審議会の認証（市民認証） （平成 16 年度は予定）	↗ 平成 13 年度環境報告書より多摩市環境審議会の認証（市民認証）を取得している。